

Asahi**KASEI**

グループ事業のご報告

第125期上半期決算

2015.4.1 — 2015.9.30

証券コード:3407

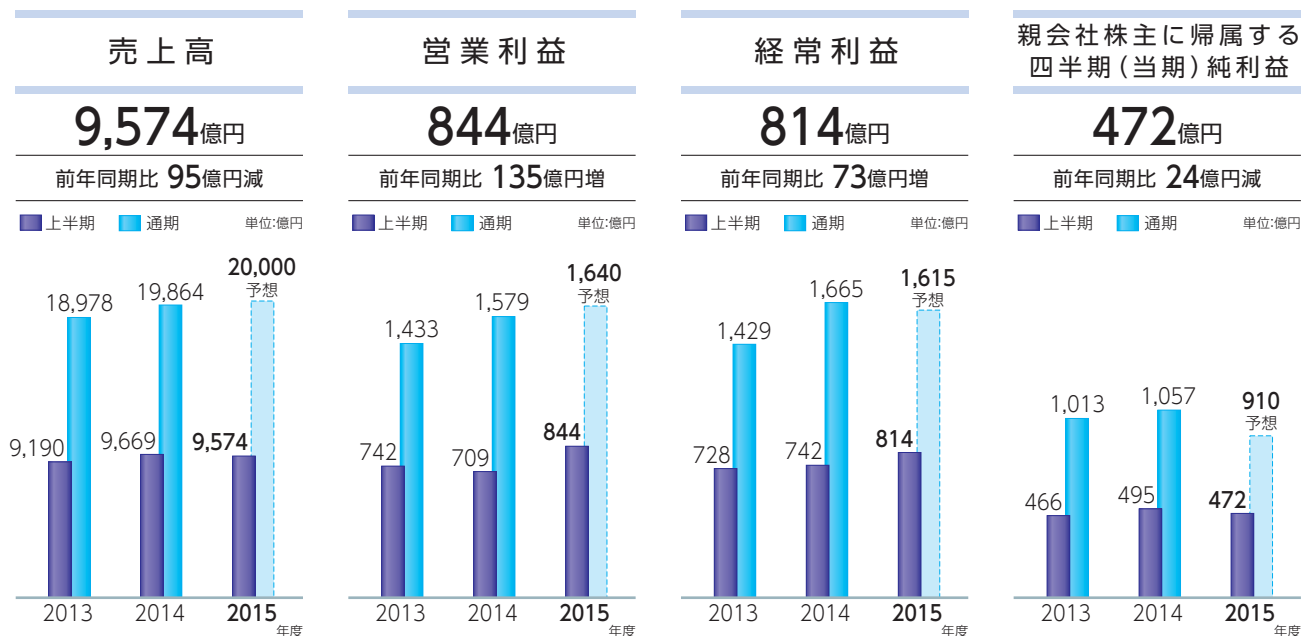
旭化成株式会社

売上高は減収、営業利益・経常利益で増益

当社グループの当上半期(2015年4月~9月)における連結業績は、ケミカル事業において石油化学製品の市況が下落したことなどから、売上高は9,574億円で前年同期比95億円(1.0%)の減収となりましたが、ケミカル事業を中心に原燃料価格が下落し、クリティカルケア事業が順調に業績を拡大していることなどから、営業利益は844億円で前年同期比135億円(19.1%)の

増益、経常利益は814億円で前年同期比73億円(9.8%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は472億円で前年同期比24億円(4.8%)の減益となりました。

なお、当上半期の中間配当につきましては、業績および配当に関する方針を踏まえ、前中間期比1円増配の10円とさせていただきます。



※ 2015年度通期の予想値は、2015年11月6日時点のものです。  
 ※ 「エレクトロニクス」セグメントにおいて、2013年度第3四半期より連結財務諸表に与える影響が重要となった子会社1社を連結子会社としたことに伴い、2013年度上期の金額を遡及修正しています。  
 ※ 旭化成建材株式会社が施工した杭工事の一部について、施工報告書のデータの流用等があったことが判明しました。当該事象に関する対策費用等の影響額は、現時点で合理的に見積もることが困難であり、当上半期決算および当期の業績予想に織り込んでいません。  
 ※ 「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当連結会計年度より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの当期純利益についても科目名を統一しております。

ごあいさつ

このたび、当社の子会社である旭化成建材株式会社が横浜市所在のマンションで二次下請けとして施工した杭工事の一部について施工データの流用等が判明し、株主様・投資家様および居住者様をはじめ、関係各位の皆様にご迷惑とご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。旭化成建材は、今後、当該マンションの居住者様の安全の確保を最優先に考えつつ、本件に対応してまいります。さらに、本件調査の過程において、当該マンションの杭工事以外にも、施工データの流用等が確認されております。この事態を重く受け止め、原因を究明するとともに再発防止等の対策を講じてまいります。

2015年度上半期における世界経済は、中国をはじめとする新興国の景気減速が続く一方で、欧州経済が持ち直し、米国では個人消費や設備投資の増加傾向が見られるなど、全体としては緩やかな回復基調にありました。日本経済は、個人消費が底堅く推移していることに加え、企業業績や設備投資も堅調でしたが、新興国景気のさらなる下振れリスクや海外情勢の不安定さなどにより、不透明さはぬぐえない状況にありました。

このような状況のなか、当社の「ケミカル・繊維」セグメントでは、ケミカル事業において製品市況が悪化したものの、原燃料価格の下落に加え、エンジニアリング樹脂等の販売量が増加し、繊維事業も好調に推移したため、減収・増益となりました。また、「住宅・建材」セグメントでは、住宅事業で不動産部門やリフォーム部門が堅調に推移したものの、戸建住宅の引渡戸数が減少したため、増収・減益となりました。「工

レクトロニクス」セグメントでは、電子部品系事業でスマートフォン向けのオーディオデバイスなどの販売が、電子材料系事業でリチウムイオン二次電池用セパレータの販売がそれぞれ堅調に推移したため、増収・増益となりました。なお、当上半期より2015年8月26日付で買収が完了したPolypore International, Inc.の業績を含めています。「ヘルスケア」セグメントでは、医薬事業や医療事業で販売量が増加し、クリティカルケア事業も順調に拡大したため、増収・増益となりました。その結果、当社グループの2015年度上半期の連結業績は、前年同期比で売上高は減収、営業利益、経常利益は増益となったものの、クリティカルケア事業における訴訟損失引当金の計上などにより特別損失が増加したことなどから親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となりました。なお、旭化成建材による杭工事の施工データ流用等に関する対策費用等の影響額は、現時点で合理的に見積もることが困難であり、2015年度上半期決算および当期の業績予想に織り込んでおりません。

当社グループは、旭化成建材による杭工事の施工データ流用等の原因究明と再発防止に真摯に取り組み、信頼回復に努めてまいります。引き続き皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2015年11月

取締役会長 伊藤 一郎  
 代表取締役社長 浅野 敏雄

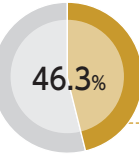
## ケミカル・繊維 セグメント

売上高

4,433億円 (前年同期比 7.2%減)

営業利益

389億円 (前年同期比 46.3%増)



**事業会社** **旭化成ケミカルズ株式会社**  
 社長：小林 友二  
**主要製品**▶ 石油化学系（アクリロニトリル、スチレンモノマー、ポリエチレンなど）、高機能ポリマー系（エンジニアリング樹脂、合成ゴム、アジピン酸など）、高付加価値系（中空糸ろ過膜「マイクロザ™」、イオン交換膜、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、[サランラップ™] など）



**旭化成せんい株式会社**  
 社長：高梨 利雄  
**主要製品**▶ 再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、スパンボンド不織布、ナイロン66繊維「レオナ™」など

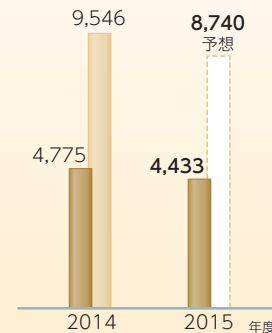
売上高は4,433億円で前年同期比342億円(7.2%)の減収となり、営業利益は389億円で前年同期比123億円(46.3%)の増益となりました。

ケミカル事業の石油化学系事業では、各製品において原油、ナフサ価格の下落に伴い製品市況が悪化しましたが、スチレンモノマーにおいては原燃料価格の下落がそれを上回り大幅に交易条件が改善しました。高機能ポリマー系事業では、原燃料価格の下落により交易条件が改善したことに加え、エンジニアリング樹脂の販売量が増加しました。高付加価値系事業では、イオン交換膜を中心に円安の効果を受け、「サランラップ™」の販売量も増加しました。

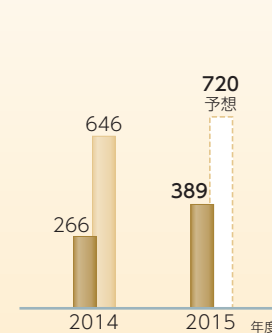
繊維事業では、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」を中心に円安の効果を受けたことに加え、カーシート向けなどの人工皮革「ラムース™」、フェイスマスク向けなど

の再生セルロース長繊維不織布「ベンリーゼ®」の販売量が増加しました。

売上高 (単位:億円)  
 ■ 上半期 ■ 通期



営業利益 (単位:億円)  
 ■ 上半期 ■ 通期



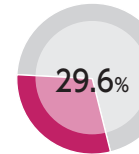
## 住宅・建材 セグメント

売上高

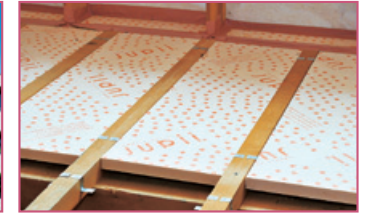
2,836億円 (前年同期比 0.4%増)

営業利益

270億円 (前年同期比 6.2%減)



**事業会社** **旭化成ホームズ株式会社**  
 社長：池田 英輔  
**主要製品・事業**▶ 戸建住宅「ヘーベルハウス™」、集合住宅「ヘーベルメゾン™」、分譲マンション「アトラス™」、[ヘーベルメゾン™]の賃貸管理、リフォーム事業、住宅ローン事業など



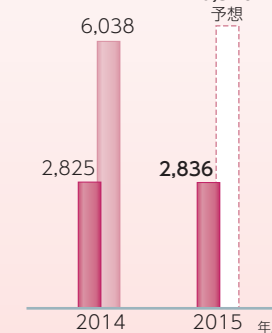
**旭化成建材株式会社**  
 社長：前田 富弘  
**主要製品**▶ 軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」・「ジュピー™」、パイル、鉄骨構造用資材など

売上高は2,836億円で前年同期比12億円(0.4%)の増収となり、営業利益は270億円で前年同期比18億円(6.2%)の減益となりました。

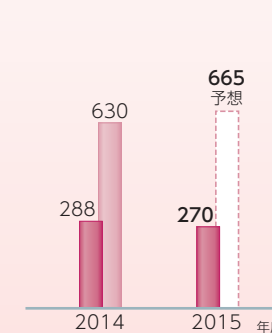
住宅事業の建築請負部門では、戸建住宅「ヘーベルハウス™」の引渡戸数が減少しましたが、不動産部門の賃貸管理事業が堅調に推移したことに加え、リフォーム部門で改装・設備工事を中心に受注が増加しました。

建材事業では、軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」の販売量が減少しましたが、原燃料価格の下落に加え、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の販売が堅調に推移しました。

売上高 (単位:億円)  
 ■ 上半期 ■ 通期



営業利益 (単位:億円)  
 ■ 上半期 ■ 通期



## エレクトロニクス セグメント

売上高

813億円 (前年同期比 9.9%増)

営業利益

80億円 (前年同期比 9.1%増)

事業会社

【旭化成エレクトロニクス株式会社】

社長：田村 敏

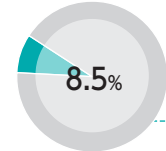
主要製品▶ ミクスドシグナルLSI、ホール素子など



【旭化成イーマテリアルズ株式会社】

社長：高山 茂樹

主要製品▶ リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」、感光性ドライフィルム「サンフォート™」、フォトマスク防塵保護膜ペリクルなど



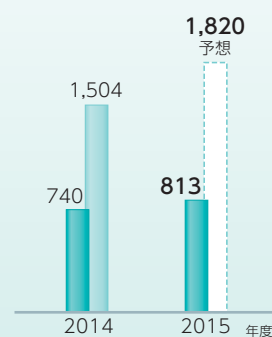
売上高は813億円で前年同期比73億円(9.9%)の増収となり、営業利益は80億円で前年同期比7億円(9.1%)の増益となりました。

電子部品系事業では、電子コンパスの販売量が減少しましたが、円安の効果に加え、スマートフォン向けオーディオデバイスやカメラモジュール用電子部品の販売が順調に推移しました。

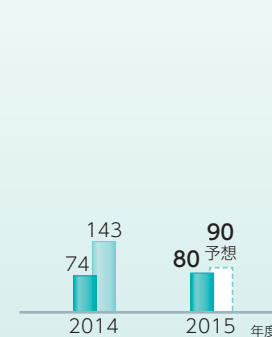
電子材料系事業では、円安の効果に加え、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」の販売が堅調に推移しました。

なお、当第2四半期より、Polypore社の業績を当セグメントに含めて開示していますが、買収に伴うのれんおよびその他無形固定資産の償却などの営業利益への影響は17億円となりました。

売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



## ヘルスケア セグメント

売上高

1,433億円 (前年同期比 18.0%増)

営業利益

207億円 (前年同期比 38.2%増)

事業会社

【旭化成ファーマ株式会社】

社長：堀 一良

主要製品▶ 医療用医薬品(骨粗鬆症治療剤「テリボン™」、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」など)



【旭化成メディカル株式会社】

社長：柴田 豊

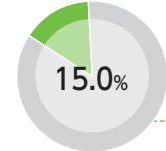
主要製品▶ ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、アフェレシス(血液浄化療法)関連製品、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」など



【ZOLL Medical Corporation】

CEO : Richard A. Packer

主要製品▶ 医療機関向け除細動器、着用型自動除細動器「LifeVest™」、自動体外式除細動器「ZOLL AED Plus™」、体温管理システム「サーモガードシステム™」など



売上高は1,433億円で前年同期比219億円(18.0%)の増収となり、営業利益は207億円で前年同期比57億円(38.2%)の増益となりました。

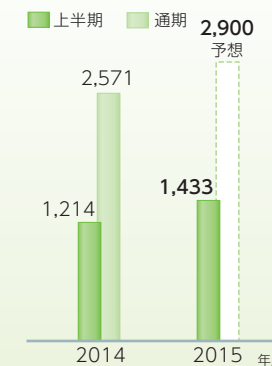
医薬事業では、後発医薬品の影響を受けた排尿障害改善剤「フリバス™」などの販売量が減少しましたが、骨粗鬆症治療剤「テリボン™」や血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」の販売が堅調に推移しました。

医療事業では、円安の効果に加え、透析関連製品やアフェレシス(血液浄化療法)関連製品、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の販売量が増加しました。

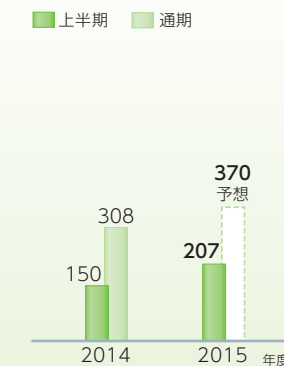
クリティカルケア事業では、営業活動強化に伴う販管費が増加しましたが、着用型自動除細動器「LifeVest™」

の業績が引き続き順調に拡大し、その他の除細動器などの販売も堅調に推移しました。

売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



## その他

売上高は59億円で前年同期比57億円(49.0%)の減収となり、営業利益は1億円で前年同期比6億円(79.7%)の減益となりました。

## 各セグメントの取り組みをご紹介します。

### ケミカル・繊維 セグメント

#### 中国での「デュラノール™」新生産設備、 「デュラネート™」第2系列の本格稼働に伴う開業式典を開催

旭化成ケミカルズは、本年6月、中国江蘇省南通市において高機能ポリウレタン樹脂原料ポリカーボネートジオール「デュラノール™」の新生産設備ならびにHDI系ポリイソシアネート「デュラネート™」第2系列の本格稼働開始に伴い、開業式典を開催しました。それぞれ自動車内装用合皮、塗料、UVウレタン樹脂製品や、自動車・建築・重防食等の無黄変ウレタン塗料の硬化剤、インキ、接着剤、注型材の原料として幅広い分野で用いられており、今後も立地条件の優れた南通でこの事業をさらに発展させていきます。



開業式典の様子

#### 水添スチレン系熱可塑性エラストマー の能力増強を決定

旭化成ケミカルズは、本年7月、川崎製造所(神奈川県川崎市)で生産している水添スチレン系熱可塑性エラストマーの生産能力を30%増強することを決定しました。水添スチレン系熱可塑性エラストマーは、独自の触媒技術と重合プロセス技術を活かした耐候性、耐熱性、耐摩耗性などに優れる高機能・高付加価値エラストマーで、樹脂改質剤や粘着剤をはじめとした幅広い分野で使用されています。近年では、特に医療部材分野で塩化ビニル樹脂に代わる軟質素材に対する要求が高まっており、ポリプロピレン樹脂の改質剤としての需要が、欧州や中国を中心に伸びています。今後も供給体制の拡充とともに、より一層の品質の向上に取り組んでまいります。

#### 「ベンリーゼ®」の生産設備増設を決定

旭化成せんいは、本年7月、宮崎県延岡市において再生セルロース(キュプラ)長繊維不織布「ベンリーゼ®」の生産設備の増設を決定しました。「ベンリーゼ®」は、スキンケア、メディカル、工業・産業用ワイパーなど幅広い用途に向け国内外で事業展開を行っていますが、近年スキンケア用途等を中心に販売量が増加し、需要の拡大が見込まれることから、設備の増設を決定しました。今後も安定供給体制を強化し顧客ニーズにお応えするとともに、グローバル市場の拡大に対応していきます。

「ベンリーゼ®」を用いた製品群の一例



### 住宅・建材 セグメント

#### 分譲マンション「アトラス調布」が竣工

旭化成不動産レジデンスは、本年5月、東京都調布市の大規模団地「調布富士見町住宅」を建替えた分譲マンション「アトラス調布」の竣工を発表しました。本建替事業は都市計画法「一団地」の廃止手続きと合意形成を並行して進めたもので、約7年をかけて行われました。1971年に分譲された地上5階建5棟176戸の団地が、地下1階、地上6階建と8階建の2棟総戸数331戸の分譲マンションとして生まれ変わり、当社がこれまで手掛けたマンション建替事業で最大規模となります。



竣工した「アトラス調布」

### エレクトロニクス セグメント

#### 山下昌哉 旭化成グループフェローが「紫綬褒章」を受章

旭化成グループフェローの山下昌哉は、本年4月、「電子コンパスとオフセット自動調整方法の開発」に関し、2015年春の「紫綬褒章」を受章しました。山下旭化成グループフェローが開発した世界初・世界最小の電子コンパスとオフセットを自動的かつ継続的に調整する技術は、歩行者ナビゲーションなどのアプリに利用され、スマートフォンに代表される携帯機器の標準機能として世界に普及しました。それにより、センサ系電子部品市場の拡大にも寄与し、今回の受章はその業績が評価されたものです。

#### 米国Polypore International, Inc.の買収が完了

当社は、本年2月に発表しました当社の米国子会社による米国Polypore International, Inc.の買収に関する手続きを本年8月に完了したことを発表しました。

※Polypore International, Inc.の詳細についてはP9を参照願います。



「紫綬褒章」を受章した山下旭化成グループフェロー

### ヘルスケア セグメント

#### 「ザイヤフレックス®」の国内製造販売承認を取得

旭化成ファーマは、本年7月、「ザイヤフレックス®注射用」(一般名:コラゲナーゼ(クロストリジウム ヒストリチウム))について、手のひら内部の腱膜が肥厚し、手指の屈曲拘縮が生じるデュピュイトラン拘縮への効能・効果で国内製造販売承認を取得しました。今回の承認取得により、デュピュイトラン拘縮の治療における新たな選択肢を提供できるものと期待しています。



「ザイヤフレックス®注射用」

#### ゾール・メディカルがイスラエルKyma社を買収

ゾール・メディカルは、鬱血性心不全の初期兆候に対する革新的なモニタリング製品の技術開発を行うイスラエルの医療機器メーカーKyma社を本年9月に買収しました。Kyma社は、高周波を用いて肺水分量の変化を検知・モニタリングできる技術を独自開発しており、これにより信頼性の高い心疾患早期検知が可能になります。今回の買収によりゾール・メディカルには、心停止・鬱血性心不全などのリスクを抱える患者さんの初期兆候を把握する技術が追加され、将来的には技術の融合により着用型自動除細動器「LifeVest™」の機能向上も期待されています。



Kyma社のデバイス

## [ Polypore社の買収について ~バッテリーセパレータ事業の強化~ ]

本年2月、当社は、米国のバッテリーセパレータおよび医療・工業用膜関連の高分子ポリマー膜メーカーであるPolypore社と、当社の米国子会社による合併によりPolypore社を買収することについて合意しました。その後必要な手続きを経て、8月26日に買収が完了し、Polypore社は当社グループの一員となりました。

※医療・工業用膜関連事業は同時に米国3M社に事業譲渡されました。

当社は、中期経営計画「For Tomorrow 2015」においてバッテリーセパレータ事業をグローバルリーディング事業と位置付けています。当社の製品である「Hipore™（ハイポア）」は、微小な孔を多数持つ高性能なポリオレフィン膜で、スマートフォンやタブレット端末、ノートパソコンなどのリチウムイオン二次電池（以下、LIB）に使用されており、今後はハイブリッド車・プラグインハイブリッド車・電気自動車といった環境対応車や、電力エネルギーの効率的活用で需要の拡大が見込まれる電力貯蔵、蓄電システム用途での事業拡大が期待されています。一方、Polypore社は、LIBおよび鉛蓄電池のバッテリーセパレータ事業において、グローバルな供給体制と高度な製品開発力を有する企業であり、今後成長が期待されるLIB用のセパレータ「Celgard™（セルガード）」に加えて、自動車や産業向け用途等で広く普及している鉛蓄電池用のセパレータ「Daramic™（ダラミック）」の両ブランドを展開しています。当社は、Polypore社のバッテリーセパレータ事業と協業を図ることで、「環境・エネルギー」分野での中長期的な技術力の向上および事業の拡大が可能となると考え、本買収を決定しました。

当社は本買収以降も、バッテリーセパレータ事業における成長戦略の実現および加速のために積極的な資源投入を図り、同事業での革新的な技術開発に取り組むことで、持続的な成長を目指していきます。

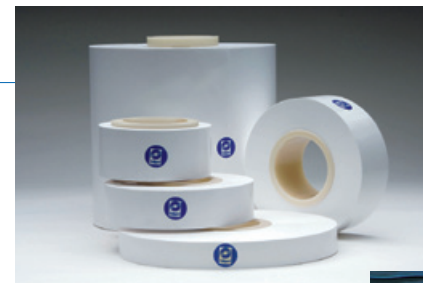


「Hipore™（ハイポア）」

Polypore社の概要	
名 称	Polypore International, Inc.
所 在 地	米国ノースカロライナ州シャーロット市
事 業 内 容	高分子ポリマー膜の開発、製造および販売
設 立	1966年
従 業 員 数	約1,840名

### Polypore社の製品

#### リチウムイオン二次電池用セパレータ



**用途**

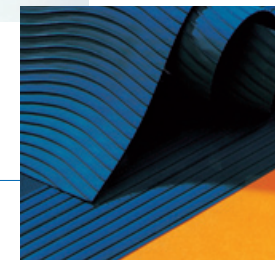
- ・携帯用電子機器
- ・電動工具
- ・電気自動車
- ・電力貯蔵システム

高い成長ポテンシャル

**特徴**

- ・乾式膜で強固な事業基盤を有している
- ・高い成長ポテンシャルを持つ環境対応車用途に注力

#### 鉛蓄電池用セパレータ



**用途**

- ・乗用車/トラック/バス
- ・フォークリフト/ゴルフカート
- ・バックアップ電源
- ・再生可能エネルギー

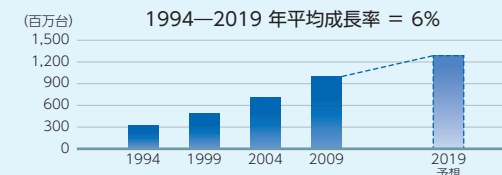
**市場環境**

・車載用蓄電池売上高の80%は交換需要が占める。蓄電池交換による経常的な売上を享受

**特徴**

- ・幅広い製品構成とグローバルな事業展開に基づく供給能力

世界の自動車総保有台数の推移



### 旭化成グループ・バッテリーセパレータ事業の生産・研究開発拠点

グループの強みを融合させて、成長戦略を加速



米国ノースカロライナ州の「Celgard™」工場

# POINT

**当上半期末の総資産**は、保有株式の時価が下落したことなどにより投資有価証券が245億円、「ケミカル・繊維」セグメントを中心に受取手形および売掛金が176億円減少したものの、Polypore社を買収したことなどにより無形固定資産が2,574億円、有形固定資産が578億円増加したことなどから、前連結会計年度末に比べて3,389億円増加し、2兆3,534億円となりました。

**有利子負債**は、Polypore社買収に係る所要資金調達のために借入を実行したことなどにより、前連結会計年度末に比べて2,417億円増加し、5,107億円となりました。

**純資産**は、為替換算調整勘定が144億円減少したことや、配当金の支払140億円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を472億円計上したことなどから、前連結会計年度末に比べて127億円増加し、1兆1,104億円となりました。

この結果、自己資本比率は46.5%となりました。

**営業活動によるキャッシュ・フロー**は、法人税等の支払額223億円、たな卸資産の増加205億円などの支出があったものの、税金等調整前四半期純利益759億円、減価償却費441億円、売上債権の減少254億円などの収入があったことから、1,120億円の収入となりました。

**投資活動によるキャッシュ・フロー**は、Polypore社買収などにより連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,944億円があったほか、有形固定資産の取得による支出416億円などがあったことから、2,355億円の支出となりました。

**財務活動によるキャッシュ・フロー**は、長期借入金の返済による支出837億円、配当金の支払140億円などの支出があったものの、Polypore社買収などに伴う短期借入金の増加2,477億円、コマーシャル・ペーパーの増加120億円などの収入があったことから、1,650億円の収入となりました。

これらに加え、現金及び現金同等物に係る換算差額による減少41億円、連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加63億円があったことから、**現金及び現金同等物の上半期末残高**は、前連結会計年度末より438億円増加し、1,561億円となりました。

## 連結貸借対照表(要旨)

単位：億円

科目	当上半期 2015年9月30日現在	前期 2015年3月31日現在	前上半期 2014年9月30日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	9,399	8,916	8,848
固定資産	14,136	11,230	10,578
有形固定資産	5,603	5,025	4,915
無形固定資産	5,435	2,861	2,656
投資その他の資産	3,098	3,344	3,007
<b>資産合計</b>	<b>23,534</b>	<b>20,145</b>	<b>19,426</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	8,054	5,074	5,462
固定負債	4,376	4,094	4,164
<b>負債合計</b>	<b>12,430</b>	<b>9,168</b>	<b>9,626</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	9,122	8,790	8,356
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	7,325	6,993	6,557
自己株式	△ 31	△ 30	△ 29
その他の包括利益累計額	1,834	2,036	1,309
非支配株主持分	149	151	134
<b>純資産合計</b>	<b>11,104</b>	<b>10,977</b>	<b>9,800</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>23,534</b>	<b>20,145</b>	<b>19,426</b>

## 連結損益計算書(要旨)

単位：億円

科目	当上半期 2015年4月1日~ 2015年9月30日	前上半期 2014年4月1日~ 2014年9月30日	前期 2014年4月1日~ 2015年3月31日
売上高	9,574	9,669	19,864
売上原価	6,674	7,070	14,393
売上総利益	2,901	2,599	5,471
販売費及び一般管理費	2,056	1,890	3,891
<b>営業利益</b>	<b>844</b>	<b>709</b>	<b>1,579</b>
営業外収益	49	74	173
営業外費用	78	42	87
<b>経常利益</b>	<b>814</b>	<b>742</b>	<b>1,665</b>
特別利益	1	25	31
特別損失	56	26	112
<b>税金等調整前純利益</b>	<b>759</b>	<b>741</b>	<b>1,584</b>
法人税等	283	242	515
四半期(当期)純利益	477	500	1,069
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	損 5	損 4	損 12
<b>親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益</b>	<b>472</b>	<b>495</b>	<b>1,057</b>

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当連結会計年度より、「少数株主持分」は「非支配株主持分」に、「少数株主損益調整前四半期(当期)純利益」は「四半期(当期)純利益」に、「少数株主損益」は「非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益」に、「四半期(当期)純利益」は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としており、前連結会計年度までの四半期(当期)純利益についても科目名を統一しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：億円

科目	当上半期 2015年4月1日~ 2015年9月30日	前期 2014年4月1日~ 2015年3月31日	前上半期 2014年4月1日~ 2014年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,120	1,376	430
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,355	△ 1,005	△ 478
財務活動による キャッシュ・フロー	1,650	△ 740	△ 400
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 41	55	19
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	375	△ 314	△ 429
現金及び現金同等物の 期首残高	1,123	1,431	1,431
連結範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	63	6	1
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	1,561	1,123	1,004



ホームページのご紹介  
旭化成 決算 説明会 検索

最新の決算説明会の内容を、音声およびスライド資料にてご確認いただけます。

会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業を行う会社の株式保有およびその事業活動の管理等
本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
連結対象子会社	172社
持分法適用会社	31社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp

役員

取締役会長	伊藤 一郎	常勤監査役	永原 肇
代表取締役社長 兼 社長執行役員	浅野 敏雄	常勤監査役	城戸 信介
代表取締役 兼 副社長執行役員	平居 正仁	社外監査役	小林 公司
代表取締役 兼 専務執行役員	小林 友二	社外監査役	真壁 昭夫
代表取締役 兼 専務執行役員	小堀 秀毅	社外監査役	伊藤 鉄男
取締役 兼 常務執行役員	小林 宏史		
社外取締役	市野 紀生		
社外取締役	白石 真澄		
社外取締役	安達 健祐		

株式の状況

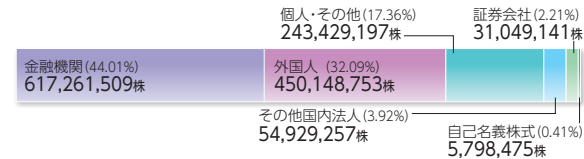
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	90,407 名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	73,562	5.27
日本生命保険相互会社	73,000	5.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	57,010	4.08
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
旭化成グループ従業員持株会	33,841	2.42
株式会社みずほ銀行	20,269	1.45
東京海上日動火災保険株式会社	20,215	1.45
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託みずほ銀行口	19,800	1.42
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	19,551	1.40
住友生命保険相互会社	19,517	1.40

(注) 持株比率については、自己株式を除いて算出しています。

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



Close Up



理工系女性人材育成のための

「夏の理工チャレンジ」キャンペーンに参画

内閣府が展開している理工系女性人材育成のための「夏の理工チャレンジ」キャンペーンに、日本経済団体連合会の一員として協力し、理工系進路を志望する女子高校生を対象としたイベントを実施しました。

旭化成は、本年8月27日(木)に、富士支社(静岡県富士市)で研究所見学と研究・技術職の女性従業員との交流を目的としたイベント『「リケジョ」のシゴト、知ろう、触れよう』を実施し、19名の女子高校生が参加しました。

当日は「科学・分析のシゴト」と「住まいのシゴト」の2コースに分かれ、それぞれ当社の基盤技術研究所、住宅総合技術研究所を見学していただきました。参加者の皆さんには、実際に高度な分析機器を操作して解析を行ったり、住宅が1戸入った大きな研究施設で実証実験を体験したりと、普段触れることのない研究設備を活用したプログラムにも参加していただきました。さらに、研究・技術職の女性従業員との懇談では、仕事のやりがいや大変さ、家庭・子育て、キャリア形成などについて話が及ぶなど、活発な意見交換が行われました。

旭化成は今後も、理工系に進学し就職したいと考える女子生徒・学生を支援すると同時に、企業における女性従業員の一層の活躍を推進していきたいと考えています。



●分析機器を操作して解析業務を体験●



●住宅事業の耐候耐久棟の実験装置で検証に用いる日射や風を体験●



●女性研究員との懇談会の様子●



## 株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月下旬開催	同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
基準日	定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日	公告の方法	電子公告 <a href="http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html">http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html</a>

## 株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座 <sup>(※1)</sup> に記録された株式についてのお問い合わせ先
●住所、姓名などの変更 ●配当金の受領方法の変更 ●単元未満株式の買取、買増請求 ●特別口座から証券口座への振替請求	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*〕
●未払配当金の支払請求 <sup>(※2)</sup> ●その他のお問い合わせ	株主名簿管理人 〔三井住友信託銀行株式会社(証券代行部)*〕	

(※1) 株券電子化以前に株式会社証券保管振替機構に預託されていなかった株式は、法令に従い、当社が、名義人名で三井住友信託銀行株式会社に開設した「特別口座」に記録されています。「特別口座」に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

(※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできませんので、お早めにお受取りください。

### \*【三井住友信託銀行株式会社(証券代行部)】

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
電話照会先 ☎ 0120-782-031 (平日9:00~17:00)  
ホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 【配当金受領方法について】

お受取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受取りいただくために、①~③の口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)

- ① 登録配当金受領口座方式  
すべてのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関預金口座に振込みとなります。
- ② 株式数比例配分方式  
ご利用の各証券口座に振込みとなります。  
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- ③ 個別銘柄指定方式  
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた金融機関預金口座への振込みとなります。
- ④ 配当金領収証方式  
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受取りいただけます。

### 【単元未満株式(1~999株)の買取・買増について】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)  
なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求  
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。  
(→ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求  
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。  
(→買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

## 旭化成株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地  
<http://www.asahi-kasei.co.jp>

